

刊行にあたって

京都府立大学文学部歴史学科では、京都府内を中心にさまざまな地域をフィールドとして、歴史と文化遺産に対する調査研究を実施してきた。京都府域における調査研究の核となるのが本学の地域貢献型特別研究（ACTR）で、2019年度は、京都市と舞鶴市を中心に、歴史学科教員を代表とする共同研究をおこなった。これ以外にも教員・大学院生・学生によって京都府内外、さらには海外で調査が進められている。こうしたフィールド調査成果の概要を『京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報』として毎年刊行しており、本書はその第6号にあたる。

歴史学科では、文献史学・考古学・地理学・文化情報学・建築史学といった分野から、古文書・建造物・石造物・遺跡・景観といった多様な文化遺産の調査をおこなっている。なかでも本学科の特徴は、たとえば寺院の調査であれば文献史学と建築史学・考古学と、分野融合型の調査を積極的に実施している点にある。さらに、博物館等での展示協力や地域住民に対する報告会など、研究成果の活用・社会的還元を積極的におこなっているも特色といえよう。また、こうした調査の成果は個別の教員の手元で保管されたままとなる場合が多いが、歴史学科では本書や『京都府立大学文化遺産叢書』などに活動成果をまとめることで、調査活動およびその活用事例の公開・提示をおこない、研究・教育の成果の還元にも努めてきたところである。

本書は4部で構成されている。第Ⅰ部と第Ⅱ部は歴史学科教員を中心として各地で実施している地域の歴史と文化遺産の調査についての報告集である。第Ⅰ部は京都府内、第Ⅱ部は京都府外の諸地域を対象としている。第Ⅲ部は歴史学科が協力している京田辺市史、和束町史の編さん事業に関わる各種調査の速報を、第Ⅳ部は歴史学科の学部生を主な対象として実施している文化遺産学フィールド実習の報告を収録している。

本書を通じて、京都府立大学文学部歴史学科の調査研究と地域貢献の一端をご理解いただくことができれば幸いである。